

## 平成 19 年第 12 回経済財政諮問会議議事要旨（抄）

1. 開催日時：2007 年 5 月 9 日（水）17:30～19:15
2. 場 所：官邸 4 階大会議室
3. 出席議員：

議 長 安倍晋三内閣総理大臣

議 員 塩崎恭久内閣官房長官、大田弘子内閣府特命担当大臣（経済財政政策）、菅義偉総務大臣、尾身幸次財務大臣、甘利明経済産業大臣、福井俊彦日本銀行総裁、伊藤隆敏東京大学大学院経済学研究科教授（兼）公共政策大学院教授、丹羽宇一郎伊藤忠商事株式会社取締役会長、御手洗富士夫 キヤノン株式会社代表取締役会長、八代尚宏国際基督教大学教養学部教授

臨時議員 麻生太郎外務大臣、柳澤伯夫厚生労働大臣、松岡利勝農林水産大臣、渡辺喜美国・地方行政改革担当大臣

## （菅議員）

次に「政策評価の機能の発揮に向けて」について。1 ページ目、今年 1 月の諮問会議で、丹羽議員から政策評価の重要な対象分野については、諮問会議が決定していくべきとの提言をいただいた。こうしたものを踏まえ、重要政策に関する評価の現状を分析し、改善の方向を検討している。3 つがポイントであると思っている。1 つ目は、重要な評価対象分野の選定に当たっては、政府全体の観点から諮問会議を是非活用させていただきたいと思っている。2 つ目、評価の実施方法について、特に内閣の重要政策のうち、複数府省に関係するものがあるので、総務省が自らやるのは勿論、そうしたものは同時に関係府省が連携して評価を行う試みを是非推進していきたい。3 つ目に評価結果の反映であるが、やはり国民に反映状況をわかりやすく明示する必要がある。

2 ページ目、諮問会議、総務省、各府省という絵の中で、重要政策に関する評価の取組を進めていくために、対象分野については諮問会議から提示いただくなど、諮問会議との連携を強めていきたい。総務大臣としても、こうしたことに対応するために、毎年、各府省の評価の実施状況を踏まえ、対象分野選定の案について諮問会議に意見を申し述べることにしたい。こうしたシステムティックなサイクルを確立することによって、政策評価の機能が発揮され、諮問会議の政策審議にも資するのではないかと考えている。

## （丹羽議員）

菅議員から政策評価の機能の発揮に向けてということで、建設的な御提案をいただいたことは大変うれしく思う。行政の現場にマネジメントサイクルを根づかせてきたこれまでの成果を踏まえ、これからの各府省の重要政策について、実効性ある評価を行い、具体的な改善に結び付けていく。

勿論、今までにやってきたように自らも評価を行う。行政分野に最も精通している各府省が評価を行うのは当然である。それに社会的な評価が求められているが、タイミングが悪いとか評価の内容の結果が悪いとか色々な批判があるが、菅議員が御説明されたように、これを改善する方向へ持っていく施策が打ち出された。総務省と各府省と経済財政諮問会議の連携強化を図っていけば、政策評価の実効性と信頼性が向上して、経済財政諮問会議の政策審議に一層活用することができる。菅議員から御提案いただいた考え方を、是非骨太方針に盛り込んでいただきたい。